

2020年7月6日

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言解除後の
ライフセーバーの水浴場監視救護活動ガイドライン 2020 に関する Q&A

J L A メディカルダイレクター
J L A 溺水防止救助救命本部
J L A アカデミー本部

Q1 傷病者が罹患者の場合、関わったライフセーバーは濃厚接触者になる可能性は高いのか、もしくは濃厚接触には当たらないのか？

A1 ガイドラインに記載した PPE（个人防护具）を適切に着用していれば、濃厚接触者に該当しません。

Q2 CPR を実施する際、感染拡大を防ぐために現場のライフセーバーの人数を極力絞るか、もしくは濃厚接触を避ける意味で接触時間を短くするためのレスキューや CPR に関わる時間を最大 15 分にしてメンバーを入れ替えていくのが適切か？

A2 感染拡大を防ぐためには、救助に関わるライフセーバーを最小限にすることが適切です。したがって、PPE を適切に着用し、救急隊到着まで 15 分を越えた場合であっても、当初から関わったライフセーバーが対応すること基本としてください。

なお、ガイドラインに記載してあるように、溺水の場合は、レスキューは波打ち際で離脱し、浜で待機している 2 名のライフセーバーに溺水者を引き渡します。CPR は待機しているライフセーバーが対応します。つまり最低 3 名のチームとなります。

Q3 風が強いとエアロゾル防止のために傷病者の口の上にタオルをかけても飛ばされる。

A3 バスタオルなど大きめのタオルを使用して、タオルが飛ばされないように注意してください。また、感染を防ぐために、傷病者の頭部は風下側にし、周辺に海浜利用者などが立入らないように注意してください。

Q4 溺水時、胸骨圧迫による鼻や口から逆流が考えられる。その逆流によりタオルが濡れてしまい、それが逆に呼吸の障害にならないか？

A4 逆流により、タオルが濡れてしまった場合は、新しいタオルに変えてください。また、濡れてしまったタオルはビニール袋に入れて処分してください。なお、口腔内に胃内容物がある場合は、従来と同様にグローブを着用した手で取り除くのが適切ですが、除去した後にグローブの着脱に時間を要する場合などは、胸骨圧迫を優先してください。

なお、フェイスシールドは感染者に装着しても意味がありません。

Q5 嘔吐物が出た際に、嘔吐物にタオルなどをかける必要はないか？（嘔吐物からの感染防止）

A5 嘔吐物にタオルをかけ、搬送後はタオルごと、ビニール袋に入れて処分してください。